

浜甲に盗賊鷗類が出た!!!

浜甲子園（甲子園浜）におけるトウゾクカモメ類出現状況と種の同定について 尾崎 雄二

いつものようにマイフィールドの昆陽池公園で朝の調査中にスマホを持った妻yukiが「ショッキングな事があったで〜」と笑っている。何かと言うと、SさんからLINEで前日（5月11日）に浜甲子園で大阪支部のU50探鳥会実施中になんとトウゾクカモメ類が出たとのことで、Sさんの友達の友達が撮影された飛翔画像も添付されていた。わぁ〜いいなぁ〜「トウゾク」か「クロトウ」かなぁ〜（私の心の声：ウラヤマシイ）。前々日の9日には浜甲子園には鳥獣保護区管理員として巡視に行っていたのに・・・（私の心の囁き：ネタマシイ）でも兵庫県において貴重な種の出現なのでなんとか種の同定をして記録に残さなきゃということでSさんにお友達経由で発見・撮影者の方に連絡を取っていただきました。

それにしても私の第2フィールドの浜甲にそんな大物が・・・。（私の心の叫び：クヤシイ）

すぐに発見者の方から写真提供の快諾メールを頂き、発見当日の状況も明記いただきました。

観察・撮影日：2025年5月11日（日）

時間：11時30分頃

発見・撮影者：藤原 司（日本野鳥の会大阪支部）

場所：西宮市枝川町（浜甲子園）

状況：日本野鳥の会 大阪支部U50探鳥会実施中、当該個体は浜甲子園の南側にあるゴルフ場（アコーディア・ガーデン甲子園浜）付近の阪神高速の高架の少し手前に神戸側（西）から出現し、若干東進したのちに高架（鳴尾橋）の上を超えそのまま沖の方（南）へ飛び去った。出現時には浜内にいたコアジサシの群れを追っていたように見えた。大きさに関してはコアジサシの1.7〜2倍程度もしくはコリカモメ程度が若干大きめなくらいの印象を受けた。



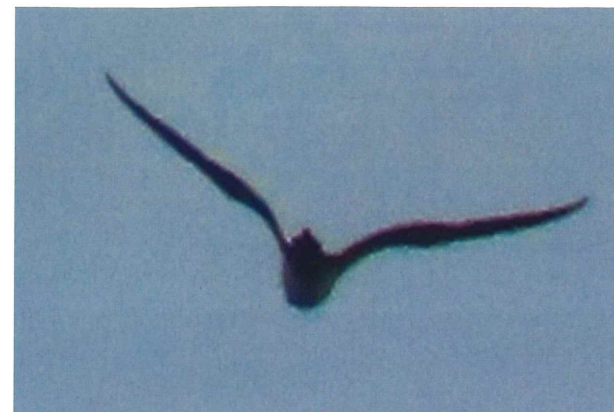
▲写真①



▲写真②

提供いただいた写真から種の識別を試みます。この個体は翼が長く、頸は短くカモメ類の形態に似ているが上面（頭・翼・背・尾）が暗色（黒味が強い色）であることからカモメ類ではなくトウゾクカモメ類の一種であることが推測される。次に腹部が白色であること、脇や下尾筒に暗色の横斑が無いことからオオトウゾクカモメ以外のトウゾクカモメ・クロトウゾクカモメ・シロハラトウゾクカモメ3種いずれかの淡色型生殖羽であると思われる。そして写真①③より中央尾羽は他の尾羽より長く突出しているがシロハラトウゾクカモメのような長さは有していないこと、またトウゾクカモメのようなスプーン状の尾羽ではないことからクロトウゾクカモメが妥当かと考えた。また観察者の大きさに関する印象とも相違はないと思われた。しかし腹部の形状がトウゾクカモメ的にも感じ、尾羽の形状は年齢・個体差や換羽などの条件などがあるかもしれないと悩みました。

そこでこれ以上の特徴を写真から読み取ることが出来なため、『新 海鳥ハンドブック増補改訂版』の著者であり、科学イラストレーターで海鳥観察のスペシャリストである箕輪義隆氏に写真を送り、コメントをいただきましたので以下に要約を示します。



▲写真③

【尾羽の形態】写真③からはクロトウゾクカモメのように尖った形に見える。トウゾクカモメは半分ねじれたような形をしているので、この角度で見ると尾の先端が上下に膨らんで見えることが多い。

【頭部と体との関係】クロトウゾクカモメはおでこが低く頭が小さいためか、体の上のラインが直線的なのに対し、胸が張り出して三角形の体型に見えることがよくあり、写真③はまさにそのように感じる。

※1 ある動植物を他と区別する独特の外観

上記の検討から当該個体はクロトウゾクカモメ（黒盗賊鷗、学名：*Stercorarius parasiticus*）と考えられる。クロトウゾクカモメとはチドリ目トウゾクカモメ科トウゾクカモメ属に分類される海鳥の一種で、ユーラシアから北アメリカの北極圏で繁殖し、非繁殖期には北半球、南半球の外洋に広く分布し海上で過ごす。日本では旅鳥または冬鳥として北海道から本州の太平洋上に飛来し、沿岸や内陸で記録されることはごくまれである。小型のカモメ類・ウミスズメ類・アジサシ類などの海鳥を襲って啜っている魚などを落とさせたり吐き出させたりして、それを食べる習性があるとされる。また、日本野鳥の会ひょうごの過去の記録と照らし合わせた結果、クロトウゾクカモメの兵庫県下の初記録となった。

今回、外洋に生息するクロトウゾクカモメが大阪湾の最深部である浜甲子園に飛来した理由としては5月9日から10日にかけて前線が通過し、強い南風が大阪湾に吹きこんだことが影響したと考えられる。

また5月17日、18日にも浜甲子園周辺や大阪南港野鳥園周辺で多くのハシボソミズナギドリなどが観察された。これらも同様に5月16日から17日にかけて近畿を通過した前線の影響で南風が強く吹いたためと思われる。

最後になりましたが、今回の貴重な目撃情報・写真提供いただきました藤原司氏、種の同定に関して多大なる知見を御教授いただきました箕輪義隆氏にはこの場を借りて深く感謝申し上げます。

【参考写真】

クロトウゾクカモメ（黒盗賊鷗、学名：*Stercorarius parasiticus*）淡色型成鳥生殖羽



▲2004年5月15日 愛知県豊田市にて筆者撮影

【参考にした資料】

海鳥識別ハンドブック、文一総合出版 2007年1月30日初版

新 海鳥ハンドブック、文一総合出版 2020年11月6日初版

新 海鳥ハンドブック 増補改訂版、文一総合出版

2024年11月20日初版

日本の野鳥550 水辺の鳥、文一総合出版

2000年2月15日初版

新版 日本の野鳥、山と溪谷社 2018年7月5日初版第3刷

決定版 日本の野鳥650、平凡社 2015年4月25日初版第2刷